

平成26年度 事業実施報告書

1. 事業の実施主体名

大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会

2. 実施した事業の概要

地域の学びを通じた被災地の地域コミュニティ支援のため、以下のような活動を実施した。

①運営協議会等の実施

構成員・人数	開催年月日	内容	開催場所	備考
被災地スタッフ9名 プロジェクトメン バー5名	2014年4月19日 (土) 18:30～20:30	第1回 運営協議会 委員会	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター) 霞が関ナレッジス クエア (KK2) 【TV会議】	
被災地スタッフ2名 プロジェクトメン バー2名	5月17日(土) 18:30～20:30	協議会 打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地スタッフ9名 +協力者4名 プロジェクトメン バー5名	6月7日(土) 18:30～20:30	第2回 運営協議会 委員会	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター) 霞が関ナレッジス クエア (KK2) 【TV会議】	
被災地スタッフ6名 プロジェクトメン バー2名	9月2日(火) 18:30～20:30	第3回 運営協議会 委員会	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地スタッフ7名 プロジェクトメン バー4名	2015年1月10日 (土) 18:30～20:30	第4回 運営協議会 委員会	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター) 霞が関ナレッジス クエア (KK2) 【TV会議】	
被災地スタッフ7名 +協力者1名 プロジェクトメン バー3名	3月7日(土) 18:30～20:30	第5回 運営協議会 委員会	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター) 霞が関ナレッジス クエア (KK2) 【TV会議】	
被災地スタッフ+協力者：45名 プロジェクトメンバー：21名				
大船渡市教育委員会、末崎地区公民館、霞が関ナレッジスクエアのほか、末崎町のリーダー、コーディネーターなどにより大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会を組織し本事業を推進した。運営協議会は、大船渡市教育委員会、末崎地区公民館、霞が関ナレッジスクエアの3団体を中心に、地域自治、コミュニティ活動に関わる末崎町のリーダー、世話人らで構成した。末崎地区公民館は活動場所の提供、活動の告知、関係者の連絡調整を担当。霞が関ナレッジスクエアは、「デジタル公民館まっさき」活動に必要なプログラムの企画・開発・調整と活動スタッフチームの編成などを行い、定期的に現地活動を組織した。大船渡市教育委員会は市の教育政策推進の立場から、本事業の成果を行政施策に生かすこととした。構成メンバーは本事業を通じて共に学び共に考え共に担う社会に向けて力を合わせコミュニティづくりに取り組んだ。				

②研修会、講習会等の実施

構成員・人数	開催年月日	内容	開催場所	備考
被災地スタッフ1名 プロジェクトメン バー1名 講師(株式会社タ フ・ジャパン)1名	2014年4月19日 (土) (4h)	【公】地域防災・消防団勉強会 打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地スタッフ3名 プロジェクトメン バー3名 講師(東京文化財研 究所・成城大学)2 名	5月1日(木) (2h)	【民】「ごいし民俗誌」ワーキンググループ 打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター) 霞が関ナレッジス クエア (KK2) 【TV会議】	
プロジェクトメン バー13名	5月14日(水) 19:00～21:00	【勉】第1回デジタル公民館まっさき活動事 前ミーティング	霞が関ナレッジス クエア (KK2)	
被災地講師(陸前高 田市長洞元気村な でしこ会)2名 被災地スタッフ3名 被災地参加者15名 プロジェクトメン バー13名	5月17日(土) 13:30～15:30	【公】気仙に学ぶ!「長洞元気村のなでしこ 会の暮らしづくりとIT活用を学ぼう」 ・陸前高田市広田町の長洞元気村からなでし こ会(婦人チーム)をお招きし、元気村および なでしこ会の活動を紹介していただいた。な でしこ会が取り組む暮らしづくり、生きがい づくり、それをサポートするIT活用について など	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	映像コンテンツ制 作 「長洞元気村なで しこ会の活動」 (27分51秒) Web公開 http://www.massaki.jp/?p=4358
被災地スタッフ(基 石地区復興まちづ くり協議会)2名 被災地参加者15名 プロジェクトメン バー13名 講師(東京文化財研 究所)1名	5月18日(日) 13:00～16:00	【民】まっさきに学ぶ!第1回「ごいし民俗 誌 勉強会」 ・講師:久保田裕道さん(東京文化財研究所無 形文化遺産部無形民俗文化財研究室長)、開 き手・司会進行:大和田東江さん(基石地区復 興まちづくり協議会) ・独立行政法人国立文化財機構東京文化財研 究所無形文化遺産部が基石(ごいし)5地区(旧 泊里5部落)を調査し取りまとめた「ごいし民 俗誌」を題材に、村の記憶、土地の記憶、海 の1年、気仙大工による住まい、祈りと祭り などのふるさとのあらましをたどり、復興の まちづくりを考えた。	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	映像コンテンツ制 作 講演「民俗誌講 座」(51分53秒) 「ごいし民俗誌の 解説」(21分27秒) Web公開 http://www.massaki.jp/?p=4351
被災地スタッフ6名 プロジェクトメン バー3名 講師(株式会社タ フ・ジャパン)1名	6月7日(土)	【公】地域防災・消防団勉強会 打ち合わせ ・末崎町婦人防火クラブ・末崎消防連合後援 会の方々と講師と活動打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター) 霞が関ナレッジス クエア (KK2) 【TV会議】	
被災地スタッフ2名 プロジェクトメン バー1名	6月12日(木) (1h)	【公】女性リーダー 打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地スタッフ1名 プロジェクトメン バー1名	6月12日(木) (2h)	【公】地域防災・消防団勉強会 打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地スタッフ1名 プロジェクトメン バー1名	6月14日(土) (2h)	【民】「ごいし民俗誌」ワーキンググループ 打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地講師1名 プロジェクトメン バー2名	7月26日(土) 14:00～16:00	【民】まっさきに学ぶ!「災害が繰り返され る地域で暮らす覚悟と教訓」 吉田力男(語り部) ・「ごいし民俗誌」勉強会の一環で、明治19 年落成の気仙大工の名家にいまも住まわれて いる吉田力男さん宅を訪問し、お話を聞き、 映像コンテンツにした。 ・地域の災害や暮らし、まちづくり、今に残 る気仙大工の名建築 など	吉田力男さん宅 (末崎町泊里)	映像コンテンツ制 作 「住まいと仕事 津 波への備え」 (32:05) Web公開 http://www.massaki.jp/?p=4527
プロジェクトメン バー10名	8月27日(水) 19:00～21:00	【勉】第3回デジタル公民館まっさき活動事 前ミーティング	霞が関ナレッジス クエア (KK2)	

被災地スタッフ(碓石地区復興まちづくり協議会)2名 被災地参加者15名 プロジェクトメンバー10名 講師(東京文化財研究所・成城大学)1名	9月1日(月) 13:30～16:00	【民】まっさきに学ぶ!第2回「ごいし民俗誌 勉強会」 ・ごいし民俗誌「祈り一祭り行事と信仰」調査・執筆担当された俵木悟さん(成城大学准教授)による講演 ・村の記憶、土地の記憶、海の1年、気仙大工による住まい、祈りと祭りなどのふるさとのあらましをたどり、復興のまちづくりを考える	末崎地区公民館 (ふるさとセンター)	映像コンテンツ制作 「震災と民俗学」 (21分35秒) 「古地図を読む」 (41分58秒) Web公開 http://www.massaki.jp/?p=4615
被災地スタッフ(大船渡市消防団第4分団)1名 被災地参加者22名 プロジェクトメンバー10名 講師(株式会社タフ・ジャパン)1名	9月1日(土) 18:30～21:00	【公】絆づくりと地域を守る消防団 ・鎌田修広さん(株式会社タフ・ジャパン)を講師に心と体の勇氣について学ぶ。 ・地域の消防団・防火婦人クラブを中心に、まっさきのいまとこれからを、共に考え、共に学ぶことで、自らの生きるエネルギーを上手く引き出す、メンタルタフネストレーニングを体験する。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター)	映像コンテンツ制作 「絆づくりと地域を守る消防団」 (85分7秒) http://www.massaki.jp/?p=4620
プロジェクトメンバー12名	11月5日(水) 19:00～21:00	【勉】第4回デジタル公民館まっさき活動事前ミーティング	霞が関ナレッジスクエア (KK2)	
プロジェクトメンバー12名	12月10日(水) 19:00～21:00	【勉】第5回デジタル公民館まっさき活動事前ミーティング	霞が関ナレッジスクエア (KK2)	
被災地講師(陸前高田市長洞元気村)2名 被災地協力者(陸前高田市長洞元気村なでしこ会)2名 被災地参加者15名 プロジェクトメンバー13名	12月13日(土) 18:00～19:45	【公】気仙に学ぶ!「長洞元気村の未来づくりを学ぼう」 ・長洞元気村 事務局長の村上誠二さん、村長の戸羽貢さんからお話し伺う。 ・被災時の状況から、仮設住宅の建設運営、そして、これからのまちづくりについて など	長洞元気村 (陸前高田市小友町)	
被災地講師1名 プロジェクトメンバー9名	12月14日(日) 14:15～15:30	【民】まっさきに学ぶ!吉田力男(語り部)12月 ・「ごいし民俗誌」勉強会の一環で、明治19年落成の気仙大工の名家にいまも住まわれている吉田力男さん宅を訪問し、お話を聞く。 ・集落ごとに受け継がれてきた民俗芸能の継承の難題、建築的な特徴や末崎地域の気仙大工の歴史、被災地で暮らしてきた吉田家のアイデンティティなどについて伺う。	吉田力男さん宅 (末崎町泊里)	
プロジェクトメンバー14名	2015年2月12日(水) 19:00～21:00	【勉】第6回デジタル公民館まっさき活動事前ミーティング	霞が関ナレッジスクエア (KK2)	
被災地劇団員11名 被災地スタッフ2名 被災地参加者60名 プロジェクトメンバー14名	2月14日(土) 13:30～15:00	【公】気仙に学ぶ!「気仙ボケー座 まっさき公演」 ・ユーモラスな寸劇を通じて地域に認知症の理解を広める活動が続けるボランティア劇団『気仙ボケー座』 ・演題は、物忘れの違い・ごはん戦争・うんち戦争・徘徊騒動・精神余命(アルツハイマー病の告知)の5つ ・楽しみながら、ボケの特徴・つきあい方を学ぶ。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター)	映像コンテンツ制作「気仙ボケー座」 Web公開 http://www.massaki.jp/?p=5257

被災地スタッフ(碓石地区復興まちづくり協議会)2名 被災地参加者15名 プロジェクトメンバー10名 講師(東京文化財研究所・成城大学)1名	2月15日(日) 9:30～12:00	【民】 まっさきに学ぶ！第3回「ごいし民俗誌 勉強会」 ・「ごいし民俗誌」企画・調査のリーダーで「泊里五部落」「1年の行事あれこれ」「移り変わる風景」の調査・執筆、並びに民俗誌全体のとりまとめを行った今石みぎわ研究員(東京文化財研究所無形文化遺産部)による講演 ・大災害と民俗文化、無形文化遺産の意味・役割について触れるとともに、「ごいし民俗誌」を具体例に・記録しておくことの大切さ・調査の意味について学ぶ。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター)	映像コンテンツ制作 「暮らしの記憶を記録する」(48分00秒) Web公開 http://www.massaki.jp/?p=5240
		【衛】 霞が関ナレッジスクエアからの衛星中継 ・春のノスタルジア 日米音楽条約!! 2014年4月25日(金) 19:00～20:10 ・バロックのひととき 5月20日(火) 18:00～20:00 ・霞が関寄席 馬吉・駒与志 5月28日(水) 19:00～20:30 ・濱守栄子ワンマンライブ 6月13日(金) 19:15～21:00 ・美人古事記 ～神楽笛と講談でお届けする～ 7月3日(木) 19:00～20:30 ・4人でお届けする素敵なハーモニー 9月19日(金) 19:00～20:30 ・キャリア教育番組「エキスパートスタジオ」ゲスト：楠見敦美(株式会社カジタク取締役) 10月6日(月) 18:30～20:00 ・美人古事記 ～神楽笛と講談でお届けする～ 11月19日(水) 19:30～21:00 ・キャリア教育番組「エキスパートスタジオ」ゲスト：石原瑞子(プロゴルファー・沖縄大学講師) 12月1日(月) 18:30～20:30 ・歌とキーボードによるクリスマス音楽の夕べ 12月10日(水) 19:00～20:30	末崎地区公民館 (ふるさとセンター)	
被災地講師・スタッフ：45名 被災地参加者：157名 プロジェクトメンバー・講師：173名				
【民】 民俗誌を題材に、村の記憶、土地の記憶、海の1年、気仙大工による住まい、祈りと祭りなどのふるさとへのあらしをたどり、復興のまちづくりを考えるプログラム 【公】 公民館での、まちづくり・人づくり、地域創生を学ぶプログラム 【勉】 デジタル公民館まっさき活動を行うにあたり、講師・専門家・参加者間での打ち合わせ、意見交換、勉強会				

～共に考え、共に学ぶプログラム～
気仙に学ぶ！まっさきに学ぶ！



東京文化財研究所無形文化遺産部の調査で、末崎 碓石地区の「ごいし民俗誌」が発刊される

東京の民俗誌調査執筆者をお招きし、民俗誌を読み解く勉強会を開催

風景、暮らし、生業、祭り、祈りなど、故郷の記憶をたどる学びで、“心の復興”と“復興のまちづくり”を目指して！



～共に考え、共に学ぶプログラム～
気仙に学ぶ！まっさきに学ぶ！



講演会・勉強会：
・長瀬元氣村 なでしこ会 講演
・消防団勉強会
・「気仙ボケー座」公演

地域の人たちとよそ者が一緒になり、気仙やまっさきの地域の人や都会からの専門家を講師とし、話を聞き考える

↓

- ・まちづくり、人づくりを共に考える
- ・地域の魅力を再発見！
- ・公民館での社会教育

③地域における学習活動等の実施

被災地参加者15名 (3コマ延べ) プロジェクトメン バー13名	2014年5月17日 (土)～18日(日) 3コマ 7時間	【PC】PCネットよろず相談・ブログ活用講座 ・パソコンやインターネットの使い方について個別対応支援 ・SNS(Facebook)の活用、Windowsの設定、Excelによる表計算、写真の加工、ICレコーダーの利用法およびP Cでの音声ファイルの活用、Wordによるチラシ作成 など	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地参加者6名	6月9日(月) 9:30～13:30	【シ】竹とんぼ作成勉強会・竹とんぼの寄贈 ・竹とんぼ作成の技術修練 ・完成した竹とんぼ140機のうち40機を居場所 ハウスに寄贈	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地参加者1名	8月19日(火) 10:00～12:00	【シ】竹とんぼ教室 ・陸前高田市の施設入所者の「けずり竹とん ぼ」教室の応援	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地参加者7名(2 コマ延べ) プロジェクトメン バー10名	9月13日(月)～15 日(火) 2コマ 5.5時間	【PC】PCネットよろず相談・Web勉強会 ・パソコンやインターネットの使い方について個別対応支援 ・ブログやFacebookの活用について説明、参加者間でのブログやSNSによる情報発信・交流、PC環境の整備・ウィルス対策ソフトの設定 など	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地参加者7名	11月7日(金)～9 日(日)	【シ】末崎町民文化祭作品展示 ・メンバーの作成した竹とんぼ及び竹細工品の展示(グループとして出展)	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地参加者33名 (3コマ延べ) プロジェクトメン バー10名	11月8日(土)～9日 (日) 3コマ 8.5時間	【PC】【町】PCネットよろず相談 ・パソコンやインターネットの使い方について個別対応支援 ・Word・PowerPointによるチラシ作成、SNS(Facebook)の活用、Excelによる連絡網・表作成など	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	映像コンテンツ制作 「まちおもいフォト」(3分57秒) Web公開 http://www.massaki.jp/?p=5097
被災地協力者3名 被災地参加者33名 プロジェクトメン バー12名	11月8日(土) 18:30～22:00	【映】ふれあい映画館 映画「永遠の0」上映 東宝：2013年 ・親子・家族、地域で楽しむ映画上映会 ・被災地での上映にあたり、東宝 協力	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地講師(どこ竹 inまっさきグルー プ)4名 被災地協力者(居場所 ハウス)2名 被災地参加者16名 プロジェクトメン バー1名	11月15日(土) 13:30～15:30	【シ】竹とんぼ飛ばし遊び (*キッズデー11月(④-②)と共通)	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地参加者1名	11月30日(日)	【シ】竹とんぼの寄贈 ・メンバーが陸前高田市立小友小学校へ竹と んぼ100機作成し寄贈する		
被災地参加者33名 (3コマ延べ) プロジェクトメン バー10名	12月13日(土)～14 日(日) 3コマ 8.5時間	【PC】PCネットよろず相談 ・パソコンやインターネットの使い方についての個別対応支援 ・Windows Movie Makerによる動画編集、Wordの差し込み印刷、Wordはがき宛名面の修正、自作の詩をカードに、インターネットの概要説明、Facebookの使い方、CDからの音楽の取り込み・CDへの音楽の書き込み など	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地講師・協力 者(どこ竹inまっさ きグループ)7名 被災地参加者34名 プロジェクトメン バー3名	12月14日(日) 9:00～12:00	【シ】ミニ門松作り教室 ・昨年に引き続き、どこ竹inまっさき 竹とん ぼグループによる「ミニ門松作り」教室 ・手作りでミニ門松を作る	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	

被災地協力者4名 被災地参加者6名 プロジェクトメン バー3名	12月13日(土) 17:30～19:30	【映】ふれあい映画館 映画「名探偵コナン 漆黒の追跡者」上映 東宝：2009年 ・地域の子供を対象とした映画上映会 ・被災地での上映にあたり、東宝 協力	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地スタッフ3名 被災地協力者(居場 所ハウス)2名 被災地参加者15名 プロジェクトメン バー1名	12月21日(日) 17:30～19:30	【映】ふれあい映画館 映画「サンタクロ スになった少年」上映 (岩手県教育委員会の事業と連携) ・地域の子供を対象とした映画上映会 ・三陸みらいシネマ 協力	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地参加者25名 (3コマ延べ) プロジェクトメン バー14名	2015年2月14日 (土)～15日(日) 3コマ 7時間	【PC】PCネットよろず相談 ・パソコンやインターネットの使い方につ いて個別対応支援 ・Excelの使い方、動画共有サイトやECサイ トなどのWebサービスの利用法、音楽CDのパソ コンへの取り込み、Facebookの操作法 など	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地参加者18名 プロジェクトメン バー2名	2015年3月7日 (日) 14:00～16:15	【映】ふれあい映画館 映画「夢は牛のお医 者さん」上映 協力：三陸みらいシネマ ・地域の親子を対象とした映画上映会	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	霞が関ナレッジス クエアでも同時上 映を実施。トーク イベントはテレビ 会議システムによ り双方通信で行っ た。
被災地参加者7名	3月16日(日) 13:30～14:30	【シ】どこ竹 in まっさき例会	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地協力者・講師・スタッフ：25名 被災地参加者：235名 プロジェクトメンバー：79名				
【PC】PCネットよろず相談 【シ】シニアの出番づくり事業 【町】町民文化祭への参加と「まちおもしろフォト」の作成 【映】まっさきふれあい映画館 【衛】衛星中継を用いた公民館での社会教育プログラムの提供				

 **PC・ネットよろず相談** 

パソコンやインターネットの使い方、
またネットを通じた情報発信など、お
困りごとへの相談対応

スタッフ10名ほどで年5回



パソコン、ネットを媒介に地域の人たちと都会のよそ者が定期的にIT
支援の場を通じてくつろいだ時間を過ごす

↓

- ・住民のネット活用のサポート
- ・Facebookなどネットを通じた地域情報の発信や
スタッフと参加者との交流・・・

 **竹とんぼグループ** 

- ・シニア男性の地域の役割づくりと
して竹とんぼづくりの講師を養成
- ・シニア男子もふれあいのまちづく
りや多世代交流の一翼を担う。



↓

地域の講師が子どもを集めて竹とんぼ教室やミニ門松づくりを開く

現在、認定竹とんぼ講師は7名
東京の「どこ竹@竹とんぼ教室」との交流

 **まっさき ふれあい 映画館** 



近隣に映画館のない同地区で映
画上映会を開催！

- ・永遠の0
- ・名探偵コナン 漆黒の追跡者
- ・サンタクロースになった少年
- ・夢は牛のお医者さん

↓

- ・家族、地域で楽しめる上映会
- ・上映後のトークショーで～共に考える～

 **ネット環境(インフラ整備)** 

- ・ネット環境(現在は光回線整備)
- ・館内 無線LAN
- ・安心して使える共有パソコンの設置
(セキュリティ対策・フィルタリング対応済み)
- ・TV会議



- ・キャリア教育番組や落語寄席など
社会教育プログラムを衛星中継
(衛星アンテナを設置・STBで過去の番組も視聴可)

“姉妹公民館”として、霞が関ナレッジスクエア
のプログラムを中継



 **公民館からの情報発信** 



デジタル公民館まっさき
<http://www.massaki.jp/>

- ・イベント告知
- ・地域情報発信
- ・館報を掲載
- ・館内利用状況を公開
- ・過去の講演動画
- ・社会教育プログラムを配信
- ・「未読わかれ」の情報発信
- ・竹とんぼグループの活動 etc.

Webサイトによる活動報告と地域情報の発信をはじめ、メールマガジン、
FacebookなどSNSによる活動スタッフと参加者の交流を図っている

ただし住民参加者の輪は少しずつ広がってきているが、公民館関係者や地域
のリーダー層への浸透は進んでいない

④土曜日等を中心とする学習活動等の実施

被災地スタッフ3名 プロジェクトメン バー1名	2014年9月14日 (日) (2h)	ふれあいキッズデー 打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地スタッフ3名	10月15日(水) (2h)	ふれあいキッズデー 打ち合わせ	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ3名 被災地協力者(居場 所ハウス)3名 被災地参加者17名 プロジェクトメン バー1名	2014年10月18日 (日) 13:30～15:30	第1回ふれあいキッズデー in 居場所ハウス ・絵本の読み聞かせや紙芝居「泣いた赤お に」(浜田廣介 作) ・手で歌う遊戯	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ2名 プロジェクトメン バー1名	11月9日(日) (1h)	ふれあいキッズデー 打ち合わせ	末崎地区公民館 (ふるさとセン ター)	
被災地スタッフ3名	11月14日(金) (1h)	ふれあいキッズデー 打ち合わせ	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ3名 被災地協力者(居場 所ハウス)3名 被災地参加者16名 プロジェクトメン バー1名	11月15日(日) 13:30～15:30	第2回ふれあいキッズデー in 居場所ハウス ・紙芝居「へっこきよめ」、絵本「ふろしき づつみ」の読み聞かせ ・「もういくつ寝るとお正月」を手話を交え て歌う ・「竹とんぼを飛ばして遊ぼう」	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ3名	12月3日(水) (1h)	ふれあいキッズデー 打ち合わせ	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ3名 被災地協力者(居場 所ハウス・ふらい パンダ・サンタが 町にやってくる実 行委員会・三陸み らいシネマ)46名 被災地参加者80名 プロジェクトメン バー1名	12月21日(日) 9:00～15:30	第3回ふれあいキッズデー in 居場所ハウス 【クリスマスキッズデー】 ・巨大カステラワークショップ(非営利団体ふ らいパンダ 協力) ・サンタさんからのプレゼント(サンマチ(サ ンタが町にやってくる)実行委員会 協力) ・「サンタクロースになった少年」上映会(三 陸みらいシネマ 協力)	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ3名	2015年1月7日 (水) (1h)	ふれあいキッズデー 打ち合わせ	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ3名 被災地協力者(居場 所ハウス)9名 被災地参加者26名 プロジェクトメン バー2名	2月21日(土) 13:30～15:30	第5回ふれあいキッズデー in 居場所ハウス 伝統行事 桃の節句(3月3日)に向けて「雛祭 り」をテーマに高齢者から園児まで多世代で 一緒に楽しむ。 ・おひなさまを飾る ・ひなまつりの歌を唄う ・高田人形を飾って雛人形の由来や雛祭りの おはなしを聞く	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ4名 プロジェクトメン バー2名	2015年3月8日 (日) (1h)	ふれあいキッズデー 打ち合わせ	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	
被災地スタッフ3名 被災地協力者(居場 所ハウス)3名 被災地参加者15名 プロジェクトメン バー1名	3月14日(土) 13:30～15:00	第6回ふれあいキッズデー in 居場所ハウス ・春分の日にあわせ、親子でぼたもち作りを 行い、味わった。 ・国連世界防災会議で来日中の外国人参加者 (フィリピン/タイ/イギリス/アメリカなど)に もおはぎづくりを体験してもらい、交流を図 る。	居場所ハウス(末崎 町字平林54-1)	

被災地スタッフ・協力者：100名 被災地参加者：154名 プロジェクトメンバー：10名
「ふれあいキッズデー in 居場所ハウス」：地域のコミュニティカフェである「ハネウェル居場所ハウス」にて、児童を対象とした交流・学習の場を始めた。季節に合わせ、郷土のイベントを体験する。



土曜日子供活動

ふれあいキッズデー in 居場所ハウス

- 紙芝居・絵本の読み聞かせ
- 竹とんぼ飛ばし遊び
- 駄菓子屋染校
- 身体を使った外遊び
- 料理教室 など

2014.10からスタート！

幼稚園児
小学校低学年～中学年



地域の高齢者、大人が共に協力しあって、子供たちと接し交流する場を設けることで、まちを明るくしたい

3. 事業実施による成果及び課題

事業実施により、以下のような成果が得られた。また依然として以下の点が課題である。

実施内容と成果

(1) PCネットよろず相談

末崎地区公民館に光通信によるインターネット環境並びに無線LAN環境、ノートパソコン環境、WEBサーバ、メールサーバを用意して、定期的なパソコン、インターネットを介して、住民の自主利用や東京から訪問する専門スタッフと交流しながらICT地域や技能を高めたり、困りごとを解決する活動を行った。

(2) シニアの出番づくり事業

どこ竹@武蔵野三鷹まっさきグループと協働し、女性と違って引込みがちな男性シニアに地域の出番と役割を創出することとし、グループの自主活動と連携し、竹とんぼ講師養成講座、親子竹とんぼワークショップ、ミニ門松づくりワークショップ等を実施する。

(3) 町民文化祭への参加と「まちおもいフォト」の作成

11月8日(土)、9日(日)にふるさとセンター並びに隣接する末崎中学校を会場に実施される町民文化祭にデジタル公民館として展示ブースを設け、写真パネルや映像で活動紹介をするとともに来館者や展示者、出演グループなどのメッセージと笑顔をつなぐ「まちおもいフォト」作成活動を実施した。

(4) 「ごいし民俗誌」勉強会

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部が基石(ごいし)5地区(旧泊里5部落)を調査し取りまとめた「ごいし民俗誌」を題材に、村の記憶、土地の記憶、海の1年、気仙大工による住まい、祈りと祭りなどのふるさとへのあらしをたどり、復興のまちづくりを考えた。

(5) まっさきふれあい映画館

公民館を会場に、親子や家族、仲間たち、夫婦と一緒に映画を鑑賞、気持をシェアする機会を設けた。

(6) ふれあいキッズデー in 居場所ハウス

NPO法人「居場所」創造プロジェクト(ハネウェル居場所ハウス運営母体)と協働し、ハネウェル居場所ハウスを会場に、地域の伝統行事や自然・歴史・文化のお話を聞く、郷土料理、郷土菓子と一緒に作って食べる、竹とんぼ等の体を使って遊ぶなど、多世代と一緒に体験すること、また、紙芝居や絵本の読み聞かせ、手話の歌、駄菓子屋染校なども交えた学びの機会を定期的に設けてきた。子供と若い父母、シニア、高齢者が顔合わせる機会を増やし、地域コミュニティの元気づくりを進めた。

【成果】

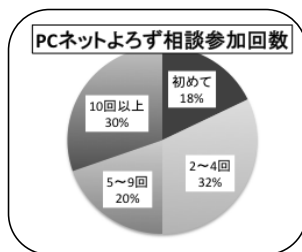
(1) PCネットよろず相談

デジタル公民館まっさき活動におけるPCネットよろず相談以外の公民館活動での交流の広がりや今まで継続しての活動からなる口コミなどから、開始からすでに3年以上継続している本プログラムではあるが未だに「初参加者」の割合が高い。これは、PCネットよろず相談への潜在的な需要が地域に多くあると思われ、引き続き活動を広げ続けることで、一層地域の要望を掘り出し応えていくことが可能であると考えられる。

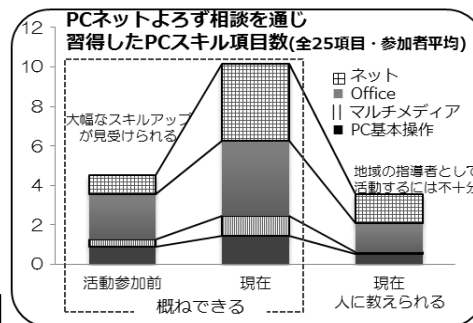
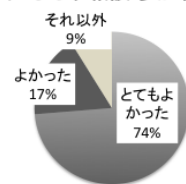
PCネットよろず相談で多く寄せられる項目を中心に、重要なパソコンスキルを25項目設定し、各項目に対し「未経験」「利用を始めた」「自分で少しできるようになった」「概ねできるようになった」「人に教えられるようになった」の5段階で参加者の実力調査を行った。

2月までの活動を通じて聞き取りを行った11人に対し、PCネットよろず相談「参加前」と「現在」について、比較集計した結果、「概ねできるようになった」項目が、下グラフのように各人平均して4.5項目から10.0項目へと向上が見受けられた。特に、ネット／応用・SNS(全8項目)は1.0項目から3.9項目へ大きくと伸びており、現地にインターネット教室がない末崎町において、PCネットよろず相談がネット活用のスキルアップに重要な役割を果たしていると言える。

しかし末崎町の方で自立したPCネットよろず相談を行うには、「人に教えられるようになった」項目はまだ3.5項目に過ぎず、現地の指導者として活動するにはまだスキルが不十分な状態である。



PCネットよろず相談 参加者満足度



公民館のデジタル化

公民館のネット・インフラの整備

- Webサイト・メールサーバ構築運用、Facebook情報交流
- 館内PC・ネットワーク利用時間(3箇所計)
月平均 118時間(H25年度) → 172時間(H26年度)
- “デジタル公民館まっさき”Webサイト 記事投稿59件
(内 被災地からの発信17件 [H25年度0件])
- 映像コンテンツ制作: 14本(H26年度制作分) [H27年3月24日現在]

■PCネットよろず相談を通じた地域活動への関わり事例(Kさん、Oさん)

【Kさん(末崎町・70代女性)】

2013年に、短歌作りをパソコン上で行うために、文章作成を学びに[PCネットよろず相談]に初参加。当初は、歌をパソコンで入力し印刷することを目的としていたが、相談対応したスタッフから短歌教室への課題提出をメールで簡単に行えることを教わり、すぐにメール・インターネットの練習も始める。インターネットはまったく未経験であったが、機能が簡潔で分かりやすい[massaki.jp]ドメインのWebメールを利用することで、すぐにメールの送受信やファイルの添付を修得する。

その後、短歌や地域活動のチラシ文章への画像貼り付けや表組みを学んだり、相談に集まった地域のお友達やスタッフがやっている様子を見て、写真加工に挑戦したりと、パソコンを通じた趣味や活動の幅を広げていかれた。

また、活動スタッフとの交流も兼ねメールを積極的に利用されていたが、2014年ごろからは、より簡易に広い範囲で交流が行えるSNS(Facebook)へも参加され、約50人と「友達」関係となり、日々積極的に投稿を続けられている。

[デジタル公民館まっさき]活動を通じ、地域活動への関わりも増え、土曜日子ども活動[ふれあいキッズデー]でも主導的立場となっている。現在では地域のコミュニティカフェ[ハネウェル居場所ハウス]からのFacebookを通じた情報発信を担当するなど、パソコンをツール・きっかけとして、地域活動に積極的に参画されている。

当初目的としていた「短歌作り、チラシ作り」に関連する【Word(文章入力)・その他Office】分野(44点満点)は活動参加前5点から、現在31点にステップアップしている。短歌作成だけであれば、必要のなかった画像貼り付け・表組のような項目にも、スタッフからのアドバイスもあり練習することで、その後のチラシ作りへとつながっていく結果となっている。また、当初全く知識・関心がなかった【ネット、ネット応用・SNS】分野(32点満点)は活動参加前0点から、現在21点に飛躍的に向上し、情報発信・交流を活発に行なっている。ご自身も「パソコンは何度教わっても、何かしら疑問が生じてPCネットよろず相談の日がまたたえる状態です」と[PCネットよろず相談]をスキルアップの機会として、本活動を通じ地域活動のきっかけとなり、地域での交友関係もおかげで15人以上増えたと喜ばれている。

	活動参加前□	現在□
PC 基本操作□(2点満点)□	4点□	6点□
マルチメディア□(2点満点)□	0点□	6点□
Word(文章作成)□(4点満点)□	5点□	19点□
その他Office□(20点満点)□	0点□	12点□
ネット□(20点満点)□	0点□	15点□
ネット応用・SNS□(2点満点)□	0点□	6点□
総計□	9点□	64点□

【Oさん(末崎町・70代男性)】

Oさんは、自治会長・元地域公民館長で、復興まちづくり協議会など、地域での仮設住宅運営・復興町づくりと主導的立場におられる。2012年、[デジタル公民館まっさき]の現地取材活動で知り合い、その後、IT活用支援を行ってきた。地域の要職にありながらも、当時は、復興支援で配布された1990年代の古いノートPCで、プリンタでの印刷も行えず、ネット環境も持っていなかったことから、多くの情報を処理しきれない状況にあった。そこで、PC環境の整備や、仮設住宅のネット環境の整備を支援し、[PCネットよろず相談]を通じ、パソコン操作の基礎から指導を行った。

当初は、キーボード操作やファイルの保存方法など基礎からのスタートであったが、文章作成や協議会資料の作成を行えるようになった。また、復興まちづくり協議会関係者など、地域以外の方々との交流や資料のやりとりも多かったが、電話やFAXに頼っていた。そこで、[massaki.jp]ドメインのWebメールの利用をお勧めし、[PCネットよろず相談]のWebメール学習会で練習を繰り返した。当初は、ファイル添付に関し苦労をされたが、継続した対応によって、現在は関係資料をメール活用されている。ご自身も「メールでやりとりが可能となり、情報の共有がスムーズになった」と感想を述べられている。最近では、Facebookなど、SNSの活用も始めら、【ネット、ネット応用・SNS】分野(32点満点)は活動参加前0点から、現在17点に上昇している。文章作成から始めて、徐々にパソコン操作に慣れていったが、メールの利用法指導(2013年9月)から劇的にPC利用の機会が増え、5倍以上の利用時間になっている。

	活動参加前	現在
PC 基本操作 (12 点満点)	1 点	6 点
マルチメディア (12 点満点)	0 点	3 点
Word (文章作成) (24 点満点)	5 点	13 点
その他 Office (20 点満点)	2 点	6 点
ネット (20 点満点)	0 点	13 点
ネット応用・SNS (12 点満点)	0 点	4 点
総計	8 点	45 点

「デジタル公民館まっさき」事業による
学びのプログラム開発、地域教育コーディネータの育成、学びのスキームづくり

平成26年度の学びのプログラムの企画は、平成24年度の学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業、並びに霞が関ナレッジスクエアの自前・身の丈活動として取り組んだ平成25年度の「デジタル公民館まっさき」活動などの中から具現化してきた末崎町地区公民館や地域リーダーの方々、住民の方々の要望、ニーズにより計画し、下記の視点でプログラムの開発と実践に取り組み成果を得、次年度への糧となった。

① 女性パワーを生かした地域コミュニティづくりの支援
→隣接する陸前高田市小友町長洞集落の長洞元気村仮設住宅・なでしこ会(女性11名)の取り組み(ICT活用、視察受け入れ、郷土菓子・海産物販売)を学ぶこと、交流することのきっかけづくりができた。
→長洞元気村では平成27年3月末、待望の作業場「なでしこ工房」が完成したので、デジタル公民館まっさきの女性チーム、居場所ハウスの住民運営チームでも視察し、相互交流・連携を深める計画である。
→子どもを主役にした多世代交流事業「ふれあいキッズデーin居場所ハウス」をNPOと住民が運営する「ハネウェル居場所ハウス」を会場に行い、とかく「高齢者の居場所」になりがちなコミュニティカフェを、若い母親や子供の居場所にも広げる役割を果たし、居場所ハウスに求められるプログラム開発にもなった。
→第3土曜日の午後、昔から行われてきた地域や季節の伝統行事、郷土のお菓子・料理づくりなどを高齢者、子ども、保護者が一緒にづくり、一緒に食す、高齢者には語り部の出番をつくり、伝える役割をになっていただいた。体験型学習、郷土学習、暮らし学習、子どもが主役のプログラムづくりなどのモデルがいくつかできた。

② シニア男性の地域の出番づくり、役割づくりを行う
→平成竹とんぼの講師育成講座のまっさき地区修了者ら7名による自主活動、ならびにデジタル公民館活動スタッフの講師資格者らが協働して活動する「ミニ門松づくり」、「ふれあいキッズデーin居場所ハウス」でも竹とんぼ飛ばし遊びをするなど、地域教育コーディネータやプログラム同士の連携も進んだ。

③ 復興のまちづくりに資するふるさととの暮らしと文化を学ぶ
→東京文化財研究所無形文化遺産部が調査研究して26年3月末にとりまとめた「ごいし民俗誌」を題材に、実際の調査研究、フィールドワークにあたった研究者を講師にした勉強会を実施。自分たちの土地、風景、生業、祭り、暮らしなどが「民俗学」の視点でまとめられていることで、自分たちのアイデンティティを知る機会になり、復興のまちづくりや地域コミュニティの有りようを考えるヒントになり、平成27年度以降、碓氷地区復興のまちづくり協議会内にチームを立ち上げ、自主的にも調査活動に取り組むなどの気運が盛り上がっている。そしてデジタル公民館まっさき、東京文化財研究所がこれに協力するスキームへのシフトが計画されている。

④ 防災・減災のための地域の絆、連携づくりにむけた消防団と住民の学びによる交流づくり
→末崎町地区は大船渡市第四消防団の活動地区ということだが、消防団と住民が一緒に学ぶ、交流するという機会はいままでない、ということで、地域の方には消防団についてもっと理解してもらう機会に、消防団の方には地域の他の組織や住民たちともっと親しくなってもらい機会として学びの機会をつくった。消防団の方々には、こういう場ははじめてのこと、ということで戸惑いもあったが、参加した住民の方々には地域の安全と暮らしを守る消防団への尊敬の念が高まり、地域の防災・減災体制推進へ一歩進んだ。

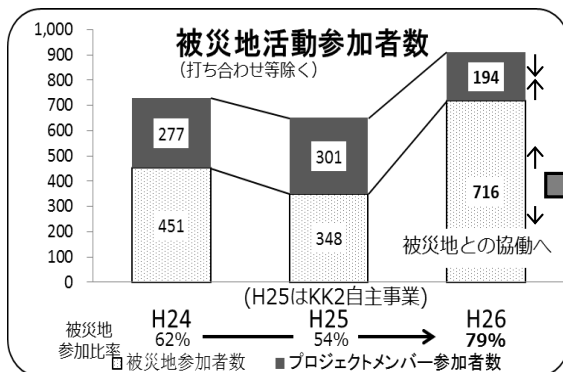
⑤ 公助だけに頼らない自助共助の人づくり地域づくり
→認知症予防と認知症の正しい知識を広める活動をしている「気仙ボケー座」に協力いただき、物忘れ戦争、ごはん戦争など楽しい寸劇をとおして認知症の患者への正しい対応、間違った対応について、ご近所さん同士、地域住民みんなで学んだ。当初、講師による講演とシンポジウム等のプログラムを検討していたのだが、演劇の力は学びの手法としてはるかに高い効果をもたらした。こうした地域を越え、差し迫った共通課題に藝術的プログラムも取り入れて取り組んだことは意義深い。今後、Webコンテンツコンテンツとして活用され、地域や被災地を越えて役立つことと期待される。

⑥ 地域住民のICT活用支援
→PC・ネットよろず相談事業は、レベルごとの習得学習やテーマ決めて一斉にスキルトレーニングを行う講座タイプのプログラムではなく、一人ひとりのお困り事や課題にスタッフが個別に寄り添う活動として取り組んだ。
これにより、生活や暮らしに役立つICT活用を身につける場、だけでなく、定期的に都会からやってくるスタッフや地域の知り合いが顔を合わせ、場を共有する“居場所”ともなった。
→PC・ネットよろず相談で、eメールやフェイスブックを身に付けた参加者と活動スタッフが、普段離れていてもいつもフェイスブックやWebメールを通じて交流することが頻繁になり、参加者、スタッフの心の通い合い、活動への愛着を生んでいる。
→協議会委員でもある地域住民の中に地域活動の報告やフェイスブックによる情報発信を積極的に担う方が育ち、災害復興のコミュニティづくりにおける高齢者の活躍、ICT活用、子どもと高齢者の交流プログラムの実践などについて、国連防災世界会議の一環で来日した方々にも話をされていた。これはPC・ネットよろず相談事業、ふれあいキッズデー事業の揺るぎない成果と言える。
→従来から行われていた、公民館報のWebサイト掲載が、公民館の担当者で直接行うことが可能となり、情報発信力がより一層高まった。

⑦ 感動を共有する場づくりとネットワーク型公民館
→映画館のない地域で思いっきり感動する映画を上映し、夫婦や親子で心をシェアする、感動をかみしめ合い、語り合う機会の創出は、まさに公民館の本質的なミッションと考え、今年度は「永遠の0(ゼロ)」、「夢は牛のお医者さん」等の「ふれあいまっさき映画館」を行った。
→「夢は牛のお医者さん」の上映にあたっては末崎小学校にも働きかけ、全校児童に案内していただくなど地域と学校の連携に道を開いた。
→本協議会のメンバーである霞が関ナレッジスクエアで末崎町出身のシンガーソングライター濱守栄子さんのコンサートを実施し、その模様を末崎地区公民館にテレビ会議システムで中継したり、「夢は牛のお医者さん」の上映後のトークイベントを霞が関ナレッジスクエアと双方向ライブで行ったり、感動の共有をネットワーク型でも実践した。

平成26年度大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会の事業では、以上のようなプログラムの企画、開発、実践をととして、持続可能な学びの企画・運営スキームづくり、地域教育コーディネータづくりに取り組んだ。そしてデジタル公民館まっさきWebサイト (<http://www.massaki.jp/>) による収録した映像コンテンツの公開、活動報告の公開などを通じて、多様な方々の参考にも資することができる。平成17年12月10日発行の「末崎の郷土史」第一節 末崎地区公民館(474ページ)には昭和21年7月5日の文部次官通牒「公民館の設置運営について」が掲載されている。この通牒の文案作成者は寺中作雄氏(当時文部科学省社会教育課長)だったことから“寺中構想”と言われ、戦後復興による郷土の再建、民主主義社会の普及、人づくりと交流の場として、全国に公民館を建設していく政策の基になったものである。

大船渡市「デジタル公民館まっさき」活動は、この寺中構想をいま再認識し、東日本大震災からの復興、地域コミュニティの再生に向けたネットワーク型の砦となっている。



持続可能な学びの企画・運営スキームづくり
地域教育コーディネータづくり・情報発信力の強化
被災地主体事業へ

現状の課題

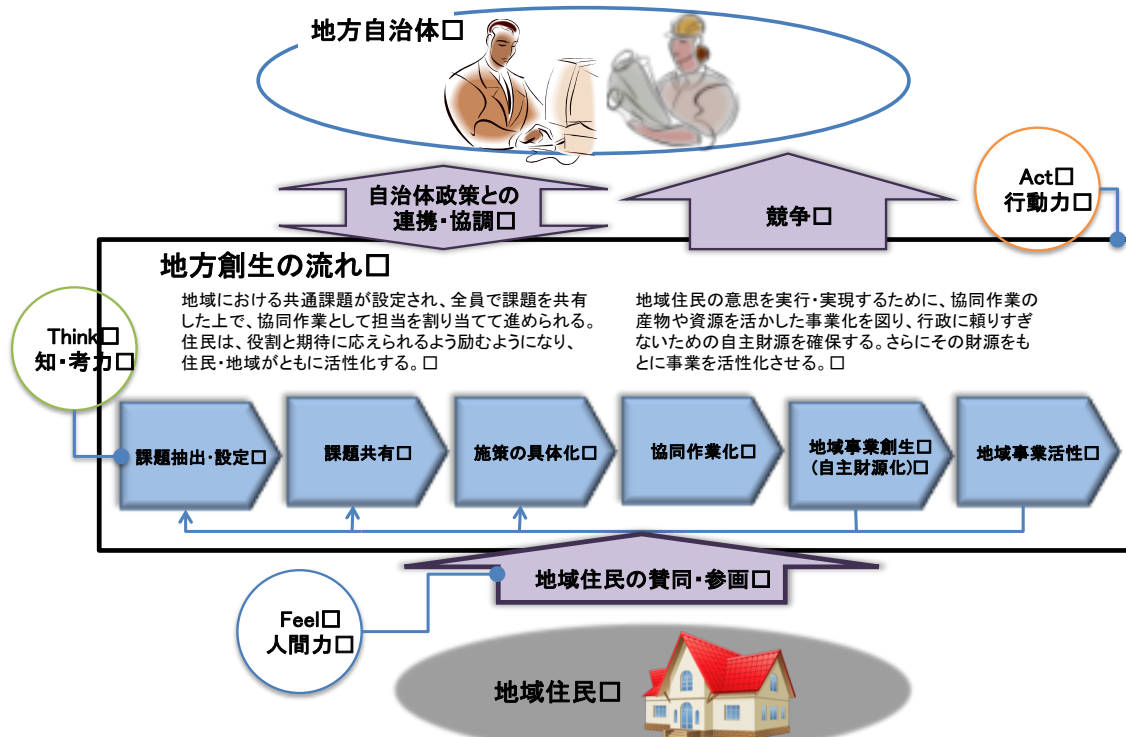
(1)ICT環境の未整備

末崎地区公民館(ふるさとセンター)は大船渡市末崎町の中心的コミュニティスペースであるが、施設運営管理面の予算措置、並びに常勤の専門人材の配置は無く、インターネットやパソコン環境も整備されていない。公民館としての情報発信も月一回の紙媒体(館報まっさき)のみで、住民へのICT活用支援も困難である。国・都道府県・市町村の各種行政情報がインターネット公開されている中で、地域の中核施設が行政施策などを常時ウォッチできないため、住民自治活動やコミュニティ活動を実施する上でも、大きな課題となっている。また、地域がさまざまな外部機関、他地域からの支援を受けて、復興から地方創生に取り組む上でも大きな課題となっている。

(2)地方創生に向けた末崎町の地域づくり

大船渡市末崎町が復興から地方創生に取り組む体制としては、末崎地区公民館長をハブとする「17集落公民館長のネットワーク」、首長部局から地区公民館嘱託3名が任命された「まちづくり推進員・協力員」、末崎町全体の振興に取り組む「末崎町振興会」がある。この三つの体制ではメンバーが重複し役割分担が明確ではなく、住民から見ても分かりづらいため改善に着手した。しかし、オールまっさきとしての地方創生(まち・ひと・しごと創生)に向け、集落再生の視点、いくつかの集落からなる”まち・むら”の視点、その他、地場産業や雇用、観光やレジャー人口の誘致と楽しい地域づくり、暮らしづくり、超高齢社会に向けた相互ケアのまちづくり...など、さまざまな課題があり、これらの改善・解決が求められている。よって地道な人づくりと立場を越えて課題を共有する学びの機会づくりが引き続き重要と考えている。

地方創生人材に必要な要素の抽出



(3)行政と住民の自治意識にギャップがある

H26年4月現在、末崎町には1,519世帯4,407人が居住し、独居老人世帯が186世帯ある。地域の共通課題として、声かけ・見守り活動等コミュニティ活動が求められるが、集落毎に格差がある。また集落単位での住民の自治意識に対して、末崎町への帰属意識や住民の自治意識は低い。行政は主として町単位でのコミュニティを管理し、住民は主として集落単位を意識しており、ここにギャップが生じている。

(4)住民個々のICT活用支援と住民自身による地域情報の発信

住民の方々はそれぞれの生活の中でパソコンの利用やインターネットの利用に取り組んでいるものの、お困りごとは日々発生する。しかし末崎地域には困った時に助けてくれる団体等はない。本事業のPC・ネットよろず相談の参加者の中から、地域情報の取材や発信活動ができる方が育ってきているので、この方々の中から指導者を育成するにはもう少し時間が必要である。